

## 奄美群島周辺海域に分布する寄生動物相の調査報告

上野大輔

### A Report of Faunal Survey on Parasites of Marine Animals in the Amami Islands

UYENO Daisuke

鹿児島大学大学院理工学研究科

*Graduate School of Science and Technology, Kagoshima University*

#### 要旨

琉球列島の中央部に位置する奄美群島周辺海域には、豊富な動物相が存在する。しかし、これらを宿主として利用する寄生動物相は、ほとんど明らかにされていない。そこで、2015年4月から2015年11月にかけて、奄美大島、加計呂麻島、徳之島、喜界島、与論島沿岸域において、様々な海産動物に寄生する動物相の調査を行った。調査から採集された寄生動物の数は、甲殻類33種(カイアシ類31種、等脚類2種)、貝類5種(ヤドリニナ類4種、イトカケガイ類1種)、多毛類(スイクチュムシ類2種)に上った。このうち、カイアシ類20種およびヤドリニナ類2種は未記載種である可能性が高い。また、その他にこれまで生息が知られていない種なども多く発見され、奄美群島周辺海域における豊富な寄生動物相の存在が示唆された。

#### はじめに

琉球列島周辺海域には、豊富な生物相が存在するが、その全貌については未だ明らかになっておらず、近年も様々な分類群において多くの新種が発見され続けている(例えばFUJIMOTO 2015, UYENO 2015)。中でも、他の動物に依存して生活する寄生性の動物相についての研究は、琉球列島全域において極めて乏しい。本研究では、琉球列島でも特に研究が行われていない奄美群島周辺沿岸海域を対象とし、そこに生息する寄生性の動物の多様性について明らかにすることを目的とし、潜水による野外調査を実施した。

#### 材料と方法

スキューバダイビングおよびスノーケリングによって潜水調査を実施し、徒手やタモ網を用いた見つけ捕りで様々な魚類と無脊椎動物を採集した。得られた動物を研究室へ持ち帰り解剖し、実体顕微鏡を用いた観察から寄生物の採集を試みた。野外調査を実施した海域と日程は次の通りである。奄美大島北部と南部沿岸、および加計呂麻島北部沿岸(2015年4月27日~5月1日、8月4日~9日、11月1日~7日)、喜界島北部沿岸(11月8日~11日)、徳之島東部沿岸(11月24日~26日)。また、与論島沿岸においては、鹿児島大学理学部地球環境科学科が実施する、地域自然環境科学実習(5月16日~17日)で採集された海産動物について寄生性の動物を調査した。

## 結果と考察

野外調査から得られた様々な動物には、数多くの動物が寄生していた。最も多く発見された分類群は甲殻類で、カイアシ類 31 種等脚類 2 種からなる。今回、カイアシ類が発見された宿主動物は魚類 10 種、貝類 12 種、八方サンゴ類 3 種、ヒトデ類 2 種、ホヤ類 4 種と多岐に渡った。これら宿主動物の中で、クボガイ科 *Tectus* 属の貝類は、奄美群島を含む琉球列島全域に広く分布し、インドー太平洋域では有用な水産資源として利用されている (POUITRES 1998)。本調査では、サラサバテイ、ギンタカハマ、ベニシリダカの 3 種の口腔や食道内部から、*Panaetis* 属 (ケンミジンコ目 Anthessiidae) 3 種が得られた。*Panaetis* 属は、世界中の海からわずか 4 種が知られる小さな属であり、そのすべてが貝類を宿主とする (BOXSHALL and HALSEY 2004)。わが国沿岸域からはサザエを宿主とするサザエノハラムシ *Panaetis yamagutii* Izawa, 1976 とアワビ類を宿主とする *P. haliotis* Yamaguti, 1936 の 2 種の分布が知られているのみである。今回の調査で得られた 3 種は、第 2 胸節の背板の形状、第 1-第 4 胸肢が具える棘の形状、第 5 胸肢の形状等が既知の 4 種とは異なる点から、未記載種であると結論づけられた (図 1)。また、サラサバテイの外套腔からは *Pseudanthessius* 属 (ケンミジンコ目 Pseudanthessiidae) の 1 種も発見されたが、本種も既知の同属他種と形態的に異なり、未記載種であった。また、転石の裏側に固着したり砂泥底に埋もれ生息する様々なホヤ類の内部からは、6 種のホヤノシラミ科 (ケンミジンコ目) カイアシ類が得られたが、それぞれの近縁種との間に形態的な違いが見られ、全種未記載種である可能性がある。また、複数の魚類からはヒジキムシ科 (管口目) の 1 種が採集された。本種の宿主魚類は、琉球列島から熱帯アジアにかけて広く分布するが、本種は沖縄島以南の海域には分布しない可能性が高い。これらカイアシ類については、得られた 31 種中 20 種が未記載種である可能性が示唆されたほか、本邦未記録種が少なくとも 2 種含まれていた。

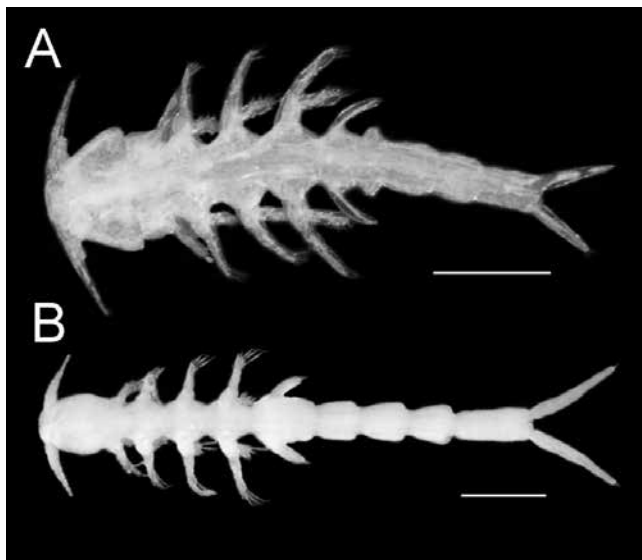


図 1 大島海峡沿岸域より採集された寄生性カイアシ類 2 種 (A: サラサバテイから得られた *Panaetis* 属の 1 種 1、雄成体; B: ギンタカハマから得られた *Panaetis* 属の 1 種 2、雄成体; スケールバーはともに 1mm)

その他に得られた寄生動物は、棘皮動物のウミシダ類、クモヒトデ類、ウニ類を宿主とするヤドリニナ科貝類 6 種および八方サンゴ類から得られたイトカケガイ科貝類 1 種、ウミシダ類を宿主とするスイクチムシ目多毛類 2 種である。このうち、ヤドリニナ科 2 種については未記載種の可能性があり、他の 2 種は奄美群島からは未記録である可能性が高い。

本年実施した調査から、奄美群島周辺海域には豊富な寄生動物が生息していることが示唆された。今後の課題としては、これまでに得られた寄生性の動物に関して種同定を正確に行い、未記載種や本邦初記録等の発見意義の大きな種について、順次報告を行う必要がある。

### 引用文献

- BOXSHALL, G. A. and HALSEY, S. H. 2004. An Introduction to Copepod Diversity. 966 pp., The Ray Society, London, UK.
- FUJIMOTO, S. 2015. Halechiniscidae (Heterotardigrada, Arthrotardigrada) of Oura Bay, Okinawajima, Ryukyu Islands, with Descriptions of Three New Species. ZooKeys, 483: 149-166.
- POUITRES, J. M. 1998. Gastropods. In: FAO Species Identification Guide for Fishery Purposes. The Living Marine Resources of the Western Central Pacific. Vol. 1. Seaweeds, Corals, Bivalves and Gastropods (Eds. CARPENTER, K. E. and NIEM, V. H.), 363-648, FAO, Rome, Italy.
- UYENO, D. 2015. Systematic Revision of the Pennellid Genus *Creopelates* Shiino, 1958 (Copepoda: Siphonostomatoida) and the Proposal of a New Genus. Zootaxa, 3904: 359-386.